



山梨大学大学院総合研究部付属

地域防災・マネジメント研究センター

Disaster and Environmentally Sustainable administration REsearch center, University of Yamanashi

2023年 6月21日

国立大学法人 山梨大学・地域防災マネジメント研究センター（武藤慎一）

令和4年度事業報告：地域拠点間道路ネットワーク整備 および維持更新の検討

【事業報告】

- (1) 山梨県では現在、大規模交通プロジェクトが進行中である。そのような飛躍的に向上すると期待される交通利便性を活かし、次世代の高付加価値産業の振興に取り組むことが「山梨県総合計画（2019年策定）」に示されており、それらの産業誘致の経済効果とともに域内道路ネットワーク整備のもたらす効果の計測も行った。
- (2) 道路ネットワークの維持更新の検討に関しては、道路施設の老朽化に伴う更新費用の将来推計を行い、その低減のための必要政策について検討した。

【今後の展開】

- (1) 橋梁の架け替え時の経済的影響評価。
- (2) コストコ等の大規模SCの出店に伴う影響分析。
- (3) 釜無川等における効果的な橋梁整備の評価。

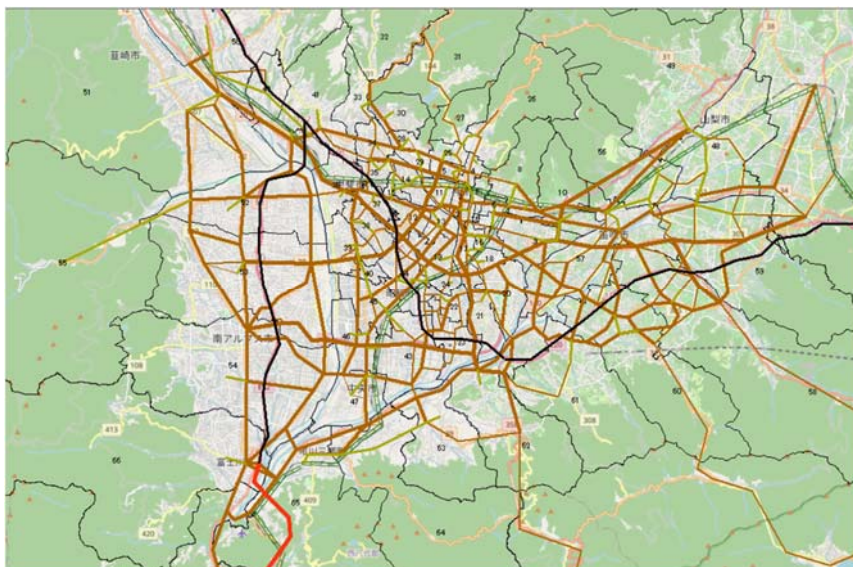


図 甲府都市圏の道路ネットワーク

令和4年度報告

社会基盤施設の健全度評価技術の実用化

担当：吉田純司

これまで開発してきた一般道路路面の画像計測システムと、路面のひび割れに関する健全度評価システムを拡張し、より安価で使い易く高精度なシステムを構築した。

- ・アクションカメラを用いて、より安価で使い易い路面の画像計測装置を開発した。
- ・上記の装置により計測した路面画像から、これまでよりも高精度にひび割れに関する健全度を評価するシステムを構築した。
- ・路面画像の健全度を地図上にコンター図として表示するシステムを構築した。

令和4年度活動報告

20230621 大槻順朗

1. 令和4年度連携事業についての報告

- ・山梨県県土整備部との連携協定協議会(R4第1回)で流域治水分科会での活動計画が承認された.
- ・山梨県県土整備部との連携協定協議会(R4第2回, R5第1回,)で流域治水分科会での活動報告を行った.

(1) 急流河川における維持管理・自然再生手法の検討

- ・潜在的な河道形状の評価と持続的な形状の設定に関する研究
 - ・流域の特性(地質や標高)による河道の特徴を評価し,それによって適切な対応を検討する.
 - ・河道と堤内地の接続性による環境評価研究(両生類を用いた評価)
- ・県土整備部との掘削予定地や測量データ等の情報共有
 - ・県土全域の点群データの提供を申請(データは未着)

(2) 山梨県流域治水のパイロット事業に関する議論(横川, 鎌田川, 濁川, 新名庄川)

- ・流域治水に関する現地視察(横川流域, 第2回 分科会 (R4.09.28))
 - ・流域内大規模開発予定地(南アルプスIC付近), 田んぼダム実証実験状況, 滝沢川浚渫状況, 横川伏せ越し計画箇所, 横川流域アクションプラン(骨子案)の共有, 南アルプス市との意見交換

(3) 中長期の視点での課題解決に向けた場の設定

- ・流域治水に関する研究会(山梨大学, R5.02.14)
 - ・山梨県より, 県が進める流域治水対策の進捗状況と課題について説明を実施.
 - ・山梨大学(大槻)より川づくりにおける三次元データとゲームエンジンの可能性・活用について説明を実施.
- ・流域治水に関する現地視察(御勅使川流域, R5.02.24)
 - ・南アルプス市教育委員会斎藤氏(学芸員)の案内による「甲州流川除」である石積出しに関する時代背景や効果の説明.
- ・川づくりにおける三次元データとゲームエンジン(GE)の活用に関する研究
 - ・GEによる3次元空間のモデリングによる流れのある水辺空間の構築技術の開発.
 - ・水辺空間の検討に必要なデータの質(データ解像度や3Dモデル)について検討.
 - ・先述の研究会のほか, 地元コンサルタントで勉強会を開催し技術普及を推進。社会実装に向けての課題を議論



山梨大学大学院総合研究部付属

地域防災・マネジメント研究センター

Disaster and Environmentally Sustainable administration REsearch center, University of Yamanashi

2023年 6月21日

国立大学法人 山梨大学・地域防災マネジメント研究センター（武藤慎一）

令和4年度事業報告：食・農に着目した「山梨フードバレー」 の経済効果計測

【事業報告】

- (1) 農業・果樹栽培に対する優位性を持つ山梨において食・農に着目した「山梨フードバレー」の実現への関心が高まっている。「山梨フードバレー」が実現すれば、農業生産が増大し、食の充実および県民・国民の健康増進が期待される。その経済効果の計測をSCGEモデルにより実施した。
- (2) 令和4年10月29日（土）に、『山梨フードバレーシンポジウム ～食と農によるまちづくり～』を開催。

基調講演：日本総合研究所 藤波匠氏

パネリスト・モデレータ：藤波匠氏, 消費者庁長官 新井ゆたか氏, 国土交通省大臣官房長 宇野善昌氏, 早稲田大学 佐々木邦明教授, はくばく代表取締役社長 長澤重俊氏, 山梨大学大学院修士2年 高井彬名・山梨総合研究所理事長 今井久氏

【今後の展開】

- (1) リニア中央新幹線の開通と「フードバレー」構想の実現による経済効果計測
- (2) 南アルプス市と連携したフードバレー構想実現の検討。

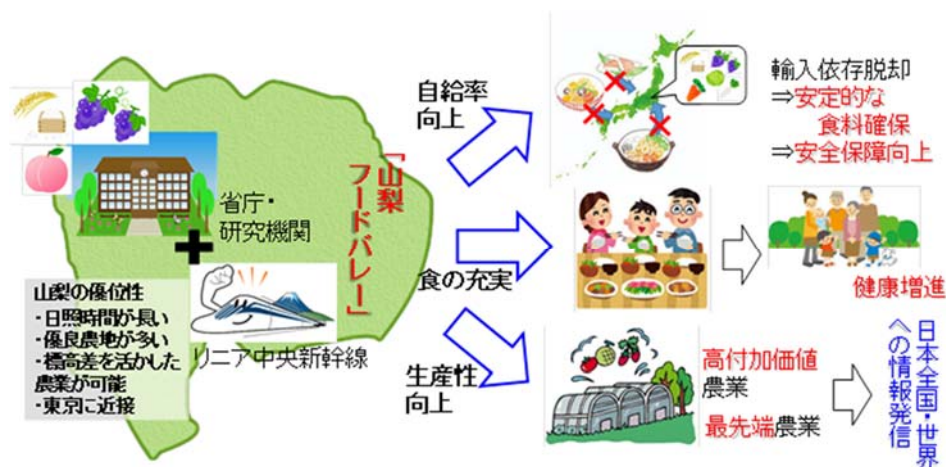


図 フードバレー構想の概要